

事務事業名	生活路線バス対策事業	所属部	政策企画部	所属課	うんなん暮らし推進課
政策名	〈Ⅱ〉安全・安心で快適なまち《定住環境》	所属G	定住・公共交通グループ	課長名	佐藤 尚子
施策名	〈13〉公共交通ネットワークの充実	担当者名	丹波 鉄也	電話番号	0854-40-1014
目的・対象	公共交通機関利用者	意図	市内及び市外に向けて安全・便利に移動できる。	(内線)	2323
基本事業	〈036〉公共交通体系の確保	予算科目	会計：款：大事業：大事業名 0:1:1:0:0:1 項：目：中事業：中事業名 0:5:7:5:6:7	公共交通総務管理事業	
目的・対象	公共交通機関利用者	意図	公共交通機関を利用できる。	バス運行対策費補助金	

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
市民 路線バス利用者	補助金交付により民間バス路線を維持確保することにより、路線バス利用者の市内外への移動手段を確保する。
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 ☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返(H16 年度～) ☐ 期間限定複数年度 (年度～ 年度)	一畑バス:生活交通路線として維持・確保が必要と認められた路線に対し補助金(国・県・市町村)を交付する。 飯南町:中国横断自動車道尾道松江線開通に伴う高速バス飯南町地内不通過に対応した代替輸送手段として運行している飯南町営バスへの負担金。
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R5年度実績(R5年度に行った主な活動)	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)
(一畑バス) 対象路線 大東線 平日:14便(7往復) 土日祝:12便(6往復) (飯南町) 対象路線 赤名吉田線 平日、土日祝:9便(4.5往復)	運行実績・要望を踏まえ、運行路線や運行時間等について改善を図っている。(一畑バス)運転手不足から路線廃止の方針が出され、市として、路線維持の要望をしたものの継続は難しく、R6.10から雲南市民バスとして路線を引き継ぐこととなっている。(飯南町)地域からの要望を受け、谷・赤名・頓原線1便の始点を「恩谷バス停」まで延長した。

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	R6年度 (計画)
ア 一畑バス大東線:利用者数	人	50,480	52,721	45,283	路線廃止
イ 飯南町:利用者数	人	9,146	9,510	8,691	10,000
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R5年度決算)	② コストの推移	単位	R3年度(決算)	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(計画)
一畑バス(株)「大東線」の運行補助金 10,527千円 (特別支援 7,561千円) 飯南町「赤名吉田線」「谷・赤名・頓原線」の運行負担金 3,451千円	財源内訳	国庫支出金	千円			
		県支出金	千円	790	1,165	522
		地方債	千円			
		その他	千円			
		一般財源	千円	3,707	9,777	13,456
	事業費計	千円	4,497	10,942	13,978	11,550

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	市が運行費用の一部を負担することで、路線維持ができ、市民の広域移動が可能となっている。利用者の増加を図ることを目的とした利用促進PRの実施、利用者満足度を向上させるため、利便性(ルート・時間帯)の高い運行形態への見直しを要望している。
② 事業実施するうえでの課題	飯南町が運行主体として行っている路線であるが、市民生活を維持していく上で必要不可欠な路線である。今後も市の支援により路線を維持・確保しなければならない。実際に運行する中で、市民要望も踏まえ、運行路線や運行時間等について、改善を図っていく必要がある。
③ 課題解決に向けた改革改善等	飯南町生活路線バスについて、運行を現状どおり維持してもらうことが前提にあるが、負担金の削減を図るためには、飯南町と雲南市で経常収益が増加するよう、利用促進を図る必要がある。今後も運行状況を検証しながら次年度以降の取り組みへ反映させていく。